

市長メッセージ



遠野市長
本田 敏秋

友好都市である大府市の皆様には日頃から大変お世話になり、また、当市の沿岸被災地後方支援活動におきましても、多大なご支援を厚くお礼申し上げます。

この度、劇団わらび座による舞踊詩「遠野物語」が大府市において公演されることになりました。一昨年発生した東日本大震災によ



遠野物語10周年
かたるくん
に本木プロダクションの寄贈

って、多くの命が失われ、その土地で受け継がれてきた「文化」も失われてしまいましたが、この舞踊詩「遠野物語」が、東北の「文化」の価値を再発見し、人々が未来に向かう力に繋がるものと願っております。

ぜひ、この機会に大府市の皆様にご鑑賞いただきたくご案内申し上げます。



大府市長
久野 孝保

友好都市である遠野市とは、これまで友好都市交流文化公演「遠野デー」をはじめ、遠野物語ファンタジー鑑賞ツアーなどさまざまなかたちで文化交流を進めてまいりました。

東日本大震災では、災害時相互応援協定に基づき、遠野市が復興する沿岸被災地後方支援活動に対し、市民の皆様のご協力を通じて支援をさせていただきました。

この度、大府市芸術祭における、柳田國男の名作「遠野物語」の公演を通して、東北の文化をこの大府から発信することで震災復興に繋げるとともに、遠野市と大府市のさらなる交流が深まることを期待しております。



おぶちゃん

遠野物語とは...

東北には自然と共存する中で生まれ、受け継がれてきた多くの民族芸能や祭、昔語りがあります。今回はその代表として「遠野物語」をベースに舞台化しました。

「遠野物語」は、人間はあらゆるものと共存しているという当たり前の事実を伝えると同時に、人間が自らの知恵と想像力で命を繋いできた証が描かれています。

ここに登場する人々は予期せぬ事に遭遇するたびに翻弄されます。しかし遅くどこか大らかに、妖怪や神様の存在を借りながら思い通りにならなかった事も受け入れて、明日に向かってまた歩み出すのです。

わらび座の「遠野物語」は、森羅万象の中で生きる人間たちが、知恵と勇気を持って明日に挑み続ける姿をお届けいたします。

第一部「遠野物語」

岩手県遠野地方に伝わる民間伝承を編纂した柳田國男の名作「遠野物語」の世界を題材に、わらび座10年ぶりの新作歌舞劇で描く。

津波に遭い舟を失った福二は仕事を探して故郷を出るが、山の中でのもののけ達に次々と襲われる。

問一髪のところを助けたのは神隠しにあい山に住んでいるおひで。山に命を許され、おひでに促され遠野の里へたどり着くと、座敷わらしや河童、そして彼らと心を通わせて生きている遠野の里人と出会う。

この世とあの世が交差する不思議な光景に少しづつ心を溶かしていき福二だが、彼の心には消し去れない痛みがあった...

第二部「故郷(ふるさと)」

遠野や三陸をはじめとした東北の民族芸能を安達和平演じる翁が紡いでいく、心の「故郷」をテーマにした舞踊集です。力強い重唱が響く鬼剣舞合唱のオープニング。浪に生きる男たちが勇ましく踊る沖あげ音頭、〈海の唄〉、可憐な花の精たちが舞うひな子剣舞〈花の舞〉、生者と死者の魂が熱く対話するじゃんがら念仏踊り〈霊鎮め〉、七匹の虎が勇壮に舞う〈虎舞〉、虫送りやさんさ踊りを取り入れ、生の喜びが舞台いっぱい広がる〈喜び舞〉。

翁がいざなう故郷には、喜びも悲しみも含め、互いに支え合って生きる人々がいます。



●主な出演者

平野 進一、安達 和平 他

●スタッフ

第一部 舞踊詩「遠野物語」

台本・演出/ 藤城 立 作曲/ 中野 正人

第二部 舞踊集「故郷(ふるさと)」

台本・演出/ 安達 和平 作曲/ 竹村ゆうこ

【演出】 高田 敏(第一部)、安達 真理(第二部)

【美術】 土屋 茂昭

【衣裳】 橋口 聡

【編集】 只野 恵也(第二部)

【小道具】 平野 忍

【照明】 塚本 悠

【音響】 小寺 仁

【ヘアメイク】 高 啓孝

【音楽監督】 甲斐 正人

【企画制作】 わらび座

■大府市勤労文化会館

〒474-0066 愛知県大府市明成町1丁目330

TEL: 0562-48-6151

◆JR 共和駅下車

西口から南西方向約800m 徒歩10分

◆国道23号線(名四国道)共和出口南方面

大府共和線共和町五丁目交差点南方面

◆大府高校北交差点を北方面

約2.7km 先左側

